

2018年

5月10日

## 沖縄

辺野古ゲート前  
連続6日間  
500人集中行動



# 勝つまでは、あきらめない。

多数の機動隊を動員し、辺野古新基地建設のため工事を強行する日本政府。護岸工事の開始から1年が経ち、6月には土砂の投入が始まる予定だ。連日、数百台単位で土砂運搬など工事車両が基地内に入っていく。これを止めようと市民らが「辺野古ゲート前連続6日間500人集中行動」を呼びかけた。平和のための500分の1になるため、辺野古に向かった。(片桐美佐子)

4月23日、集中行動初日。早朝、バスで那覇を出発し9時頃到着すると、既に国道329号線には資材搬入のトラックが1列に並んでいた。エンジンはかけっぱなし、隙あらばすぐにでも動き出そうというのか。米軍キャンプシユワブゲート前にはアルソックの警備員がびっしりと立つ。私たちの作戦はその前に隙間なく座り込むことだ。それを排除しよう、機動隊が取り囲む。

リーダーの山城博治さんは「権力も必死でしょう。一昨年、7月22日の高江のように機動隊が全力で襲いかかり、大混乱を起して逮捕者を出し、闘いをつぶそうとしてくる。腹を据えて確認して下さい。勝利の秘訣は、スクラムを組み、座り込むこと」と冷静な対応を呼びかけた。



20年間、戦争と基地に反対してきた市民が非暴力でできる最大の抵抗は、ゲート前に座り込み、工事車両を阻止して工事を遅らせることだ。私たちは非力だが、数がある。

おじいもおばあも、県外からの応援者も、座り込んで歌う。

「座り込めここへここへ座り込め腕組んでここへここへ座り込め…」座り込む私たちを、若い機動隊員が次々にゴボウ抜きする。「今日は荒っぽい」とベテランのおばあが言った。90分止めれば生コンが固まって使えなくなるのか、みんな少しでもトラックの進入を遅らせようかとがんばる。

数列前に、仮面のように冷たい表情で市民を踏みつける機動隊員がいた。そこにいるみんなが彼を止めている。上司と思われる隊員が制止しても執拗な暴力はなかなか止まない。幸い狂気が伝播せずにおさまった。暴力的興奮が、大きな事故につながるのが怖い。戦争の始まりもこういことか。

機動隊は引っこ抜いたゴボウを、3人掛かりで吊り下げて、機動隊車両と基地フェンスで囲われた場所(通称カングク)に持って行く。座り込みに戻らないように、トイレにも簡単には行かせてくれない。ゴボウじゃないよ、人間ですよ。

行きのバスで一緒だったおばあは何度連れてこられても、にこやかに軽々とまた座り込みに戻った。

午後2時頃、遂に1台目のトラックが基地内に入ってしまった。私たちは2台目の進入を阻止していた。入ろうとするトラックと止めようとする人々で国道では交通渋滞が起っていた。

稲嶺元名護市長も応援に駆けつけたが、やがて市民が機動隊になぎ倒され将棋倒しに。下敷きになった女性2人が肋骨や鎖骨を骨折し救急搬送されたため、山城さんは撤退を決めた。

しかし、ここまでの座り込みで工事車両進入を5時間近く遅らせることができ、通常3回ある資材搬入は1回だった。作戦は成功だった(残念ながら市民の撤退後、17時過ぎに2回目の資材搬入が行われた)。

辺野古のテントに掲げられている「勝つ方法は、あきらめないこと」。これを体現するかのよう、初日は700人が座り込んだ。

私たちの闘いは、まだまだ続く。